



iPhone 14は「5c」と並ぶ「歴史的失敗作」となるのか



アップルファンにとっては待ちに待った秋がやってきた。毎年恒例となっている新型iPhoneが登場するからだ。発売当初は予約が殺到し、しばらくは品薄が続くのが常だった。が、9月16日に発売される「iPhone 14」は少々勝手が違うようだ。早くも「大ゴケ」の予感が漂っている。

発売日直前なのに異例の「在庫あり」

アップルのホームページではiPhone 14の予約が始まっているが、14日14時現在の「出荷」予定日は5~7営業日となっている。発売までの2日間を除けば最短で3日待ちということだ。一方、6.7インチディスプレイを搭載した大画面版の「iPhone 14 Plus」は「配達」予定日が発売日と同じ10月7日なので、まだ在庫が残っている。これはiPhoneの新製品としては異例だ。

実際、すでに発表されているiPhone 14のスペックは、買い替えを検討していたユーザーをがっかりさせている。基本性能を左右するCPUは従来の新製品ではiPhoneの「Pro」モデルと同等だったのに対して、「14」では先代モデルの「iPhone 13」に搭載している「A15 Bionicチップ」を踏襲。GPUは4コアから5コアに改良されたが、大きな変更はない。

背面カメラも1200万画素のまま。2015年に発売した「iPhone 6s」以来、7年間も据え置かれたままだ。「iPad」シリーズでは採用されている標準規格の接続端子「USB Type-C」への移行も見送られた。いわばマイナーチェンジ版だ。にもかかわらず最低価格（税込）は円安の影響で11万9800円と、「13」の9万8800円（発売当時）より2万1000円も値上がりしている。

アップルは2013年に「iPhone 5s」の廉価版となる「iPhone 5c」を発売した。「5c」はCPUに前モデルの「iPhone 5」と同じ「A6」を搭載し、性能面での進歩はほとんどなかった。多色展開やデザインを変更したものの、消費者にそっぽを向かれてしまう。

ユーザーニーズを見誤ったアップル

2014年に「iPhone 6」と「iPhone 6 Plus」が発売されると、「5c」の販売はわずか1年で停止され「失敗作」に終わった。「14」の出足の鈍さは「5c」の再来を予感させる。しかし「5c」はあくまで傍流モデルであり、「14」のような主流モデルでの販売不振は痛い。

一方、「14」と同じ16日に発売される上級モデルの「iPhone 14 Pro」と「同Max」の出足は順調だ。ホームページの予約サイトでは「4~5週間待ち」か「5~6週間待ち」となっており、1カ月は待たされることになりそう。

「14 Pro」シリーズはCPUに新開発の「A16 Bionicチップ」を搭載したほか、背面カメラもメインカメラが4800万画素に増強されるなど、フルモ

デルチェンジ版といえる端末だ。価格も14万9800円からと「13 Pro」よりも2万7000円（同Maxは3万円）高くなっているが、機能の進化で跳ね返している格好だ。

アップル製品は機能向上を期待されており、前モデルの「お化粧直し」ではユーザーの支持を得られない。すでにアナリストからは「14シリーズの予約件数は、廉価版の『iPhone SE（第3世代）』や不人気モデルの『iPhone 13 mini』の直近の販売実績よりも悪い」との指摘も出ている。看板製品の「14」だが、波乱のスタートとなりそうだ。

文：M&A Online編集部

関連記事はこちら・まもなく登場の「iPhone14」、発売直後の品切れはナシ？・「MacBook」大幅値上げ、「iPhone14」はこうなる